



## 仏さまの種類

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

お寺やお堂を訪ねると、いろいろな仏さまがいて、名前など、とても全て覚えることはできないような気がします。しかし見分け方さえ知れば、かなりの仏さまの名前が、すぐに分かるようになります。というのも、仏さまの姿には決まりがあって、お経などの中に、この仏はこのような姿をしている、と書かれている通りに造られるのが基本だからです。つまり、それぞれの仏さまの姿の、決まりを覚えれば種類や名前が分かるのです。今回はまず、姿の大きな決まりを知って、種類を見分けることから始めようと思います。種類ということになれば、仏さまには、如来、菩薩、明王、天の4種類しかありません。

### 1 如来

仏教の中での最高の存在が如来です。これら如来の服装は簡素で、体には、大きな布を巻きつけているだけです。さとりを開いた人は飾りなどいらないのです。そして、如来は超越した存在ですから、体に普通の人とは異なる特徴をたくさん持っています。その中で、これは如来だけの特徴だ、としてあげられるのが肉髻にくけいです。頭の上にある、半球状のお椀わんを伏せたような盛り上がりのことです。また、如来は髪形も変わっていて、丸い粒や巻貝のような粒が頭にぎっしりと並んでいるものがありますが、これは粒の一つ一つが、一本一本の巻き髪をあらわしています。螺髪らぼうといいます。如来の髪にはパーマがかかっているわけです。螺髪は省略することもあり、とれてなくなっている場合も多いのですが。

### 2 菩薩

さとりを求めて修行しながら、人々を救い導くのが菩薩です。観音をはじめさまざまな菩薩がいて、顔の数や腕の数や持物じもつなどもさまざまです。しかし、ほとんどの菩薩が静かな顔立ちをし、髪を華やかに結ゆい上げています。そして服装は、上半身には左肩から右脇じょうほくへ、条帛じょうはくという、たすきのような布を着け、天衣てんねという、長いショールのようなマフラーのよう



如来(釈迦如来)

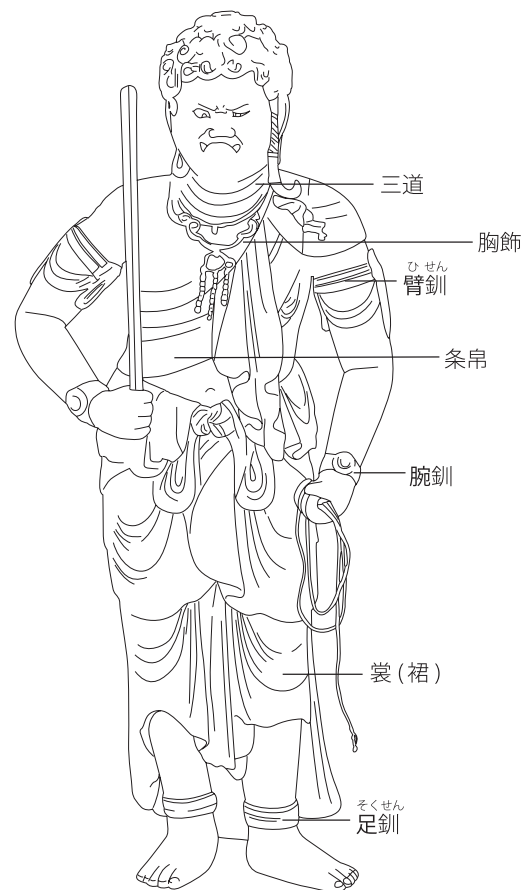


菩薩(聖観音)

な布を肩からまとい、下半身には裳または裙ももくんと呼ばれる巻きスカートを着けて、そして冠や腕輪などの装身具をつけています。なお、菩薩は、まだ如来にはなっていませんが、すでに普通の人とは違いますので、如来と同じような特徴をいくつかもっています。光を放つ金色の体や、額に白く輝く白毫びやくごうをもち、また、豊かな体つきをあらわす、三道さんどうと呼ばれるくびれを首にもつことなどは、そのような特徴の例です。

### 3 明王

明王は密教に特有の仏さまです。明とは、神秘的な力をもった言葉、つまり真言しんごんや陀羅尼だらにのことです。明王は、明の力を支配する王なのです。明を身につけた者を守り、如来の命令をうけて一切の魔を破り、そして、教え導くことが難しい者を、その強い力で正しい道に導くなどとされます。ほとんどみんなが、猛烈に怒った恐ろしげな姿をしています。しかし、そんな恐ろしげな姿をしています、よく見ると服装は菩薩と非常によく似ています。違いは天衣が無いくらいです。菩薩のような服装をしていながら、すごく怒って武器を持っている、恐ろしげな姿をした仏さまが明王です。

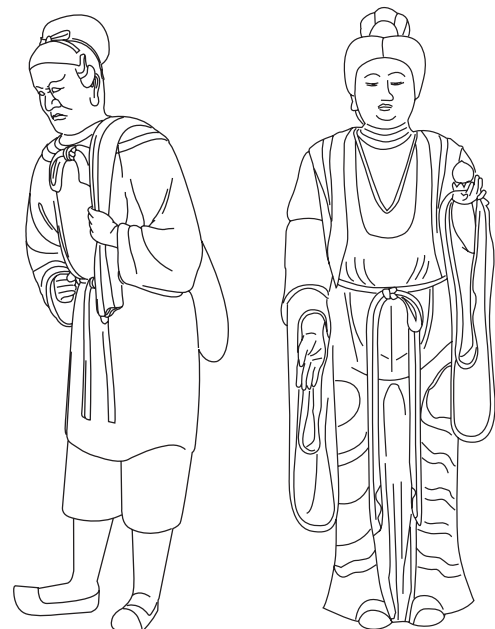


明王(不動明王)

### 4 天

天は、如来、菩薩、明王、そして、閻魔王えんまおうなどの十王じゅうおうや奪衣婆だつえいばなどの中国で生まれた神々を除く、ほとんど全ての仏さまがこれに含まれます。梵天ぼんてん、帝釈天たいしゃくてん、四天王してんのう、毘沙門天びしゃもんてん、大黒天だいこくてん、吉祥天きつしようてんなどがよく知られます。これらは古代インドの神々が、仏教に護法神ごぼうしんとして取り入れられたものです。その姿は、老若男女さまざまで、また貴人あり武人あり、人身あり獣身ありと、まことに多彩です。もちろんそれぞれ姿には決まりがあるのですが、全ての天に共通の特徴などはあげられません。しかし、如来でも菩薩でも明王でもない仏さまに会ったら、まず天だとみて、だいたい間違いないと思います。

(学芸調査室 井形進)



天(大黒天)

天(吉祥天)



編集 発行:平成23年2月1日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒 838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>